



1月26日（月）  
**実技「絵本・パネルシアターで子どもたち  
 お話の世界をプレゼント」**

講師 敬愛短期大学 専任講師  
 パネルシアター作家 酒井 基宏 さん



保育で活かすパネルシアター  
 - 子どもの探求心にこたえる保育者の役割 -

子育てを取り巻く環境が変化し、保育者に求められる役割は多岐に渡っています。個別配慮、子育て支援、地域連携など課題はたくさんありますが、どんな場面でも、その中心には必ず子どもたちがいます。「保育者が楽しければ子どもは楽しい」。これは保育士時代に私が大切にしてきた言葉になります。本日は、子どもたちと関わる手段の一つにパネルシアターを紹介します。難しく考えず、皆さん一人ひとりの感性を大切にしながら、子どもとつくる遊びとして楽しんでください。

**その1、保育者自身が本気で楽しむ**

保育にあそびを取り入れるとき、「子どもたちにこんな経験をさせたい」という思う“願い”がありますよね。そのためには、そのあそび（パネルシアター）の楽しさを知っている必要があります。私たち保育者は子どもたちにとっての遊びのモデルであり、憧れでもありますから、まずは皆さんが本気で遊んでみましょう。

**その2、お気に入りの作品を見つけよう**

パネルシアターは、今はとっても便利です。すでに印刷済みの作品がたくさんあります。子どもたちと一緒に遊ぶことがねらいですので、まずはお気に入りの作品を見つけて保育に取り入れてみてください。慣れてきたら、手作り作品にも挑戦してみるとおもしろいですよ。引き出しの多さよりも、愛着のある作品を繰り返し演じることで、“自分のパネルシアター”になっていきます。

**その3 基本を準備したら、仕上げは子どもたち**

「練習しないで、さくっとできませんか?」。これもよく耳にします。練習をしなくても大丈夫とはいえませんが、それにこだわる必要はありません。手遊びや歌の作品なら歌詞を覚える、物語ならあらすじを知っておくなど、基本の準備を整えておけば、あとは子どもたちと一緒に仕上げていけばよいと思います。私たちは保育のプロであって、上演のプロではないのですから。

**子どもたちといっしょにつくる、それが保育で活かすパネルシアターです！**

※当日、配布された資料です。

